

ごみ半減に向けた家庭ごみ減量施策の全市展開と地区単位の家庭ごみ減量トライアル計画のイメージ

ごみ半減に向けてのトライアル期間（平成24年度～25年度）

有料制導入への移行期（平成26年度前期）

平成26年度後期

ごみ半減目標達成のためのステップ（家庭系ごみ）

前期施策による分別回収率等の目標と減量効果 → 前期段階の目標達成の条件＝市民のほぼ全員への分別排出行動の浸透が必要

	現状 (H21)	前期段階 (H25)	ごみ減量効果	中期段階以降 (H26～H32)
発生抑制 (定量化できず)		71%	有料化導入による見込み Δ13%	有料化によるごみ減量意識の向上を基礎に、生ごみ、剪定枝等の資源化を加え、焼却ごみ半減を目指す
紙類	44%	75%		
布類	76%	81%		
プラ製容器包装等	10%	60%		
びん・缶	100%	100%		

※前期段階の分別回収率等はH32の値で代用（H25以降大きく変化せず）

etc

全市展開する減量施策と問題点

■ごみ半減に向けた全市的減量施策（本格的な生ごみや剪定枝のリサイクルは除く）

- ①情報提供（ごみの分別排出方法のルール等を市民に浸透できるように情報提供、市民の努力効果をタイムリーに情報提供）**
 [施策の浸透・定着のための問題点]
 - 自治会未加入の市民等情報が全員に伝わっていない。分かりにくく何をすれば良いかわからない。
 - 自分や地域の努力の効果（貢献）が見えにくい。
- ②発生抑制（水切り・食べきり運動、マイバッグ・マイ箸・マイボトル運動等の展開）**
 [施策の浸透・定着のための問題点]
 - 個人の取り組みには強弱がある。
 - 個人の行動だけでは限界がある（販売店・飲食店との連携が必要）。
 - 環境配慮型販売だけでは経営が成り立たない。
- ③地域におけるごみ減量活動の実践（集団回収活動の活性化、拠点回収（リサイクルステーション）の設置等）**
 [施策の浸透・定着のための問題点]
 - 自治会の結束力、リーダーの資質、住民の減量行動への参加レベルには地域で強弱がある。
 - 集団回収では、取組団体に属していないと参加しにくい。参加のメリットがない。世話役に負担が集中する。
 - 資源の集積場所、公園等の空間の有無に地域差がある。
 - 活動実施の呼びかけ人がいない地域がある。
 - ミックスペーパーが有価物と市民に浸透していない。ミックスペーパー中心では回収業者の収益が少ない。
 - 商店街と地域との連携が希薄となり資源回収拠点が近くにない（スーパーは高齢者にとって遠い）。
- ④資源ごみの分別収集（プラスチック製容器包装、ミックスペーパー等）**
 [施策の浸透・定着のための問題点]
 - ①情報提供や③地域におけるごみ減量活動の実践と問題点は同じ。
 - 分別収集や選別圧縮梱包に費用を要す。洗う・分ける等市民負担が発生する。
- ⑤生ごみ・剪定枝の本格的資源化の準備のためのモデル事業の実施（堆肥化の推進と農家での活用・交換システムの構築等）**
 [施策の浸透・定着のための問題点]
 - S61～生ごみ堆肥化容器・処理機設置へ補助。現在約6千世帯で利用と思われるが、利用実態の把握や利用者間の情報交換の仕組みがない。
 - 剪定枝の発生量は季節的に大きく変動する。チップ化しても引取先は限定される。

■ごみ半減プランの進行管理システムの構築

- 生駒市ごみ半減推進市民会議（仮称）の設立
- 市民、ごみ減量実践市民団体、地域ごみ半減推進会議メンバー、ごみ収集・資源化等事業者、販売店等事業者、行政等（役割）地域ごみ半減推進会議の取り組み支援、減量事業の実施状況や品目別新規削減目標量達成状況等によるごみ半減プランの進捗状況のチェック等

■ごみ半減モデル地区での取組方針等の検討

地区単位の展開

ごみ半減モデル事業の実施

■地域ごみ半減推進会議を設置（概ね半年間）（概要）

- 4地区程度（50～100世帯程度）
- 地域活動のリーダー役、その支援グループの探し出しと参加依頼
- 地域でのごみ半減の取組内容と方針の話し合い（概ね半年間）
 - 全市展開施策の地域での取組手法（分別収集のうちの古紙回収業者への回収委託方式の採用等）
 - 全市展開する施策の市民へ浸透・定着する仕組みづくり（情報提供、地域住民相互の教え合い等仕組み）
 - 取組を地域で展開するための参加者の役割分担（企画、実行、PR、関係者間調整等）

■4地区でのごみ半減モデル事業の実施（H24秋～H25秋）

- ごみ減量施策の個別手法の有効性の検証
 (例)・発生抑制：水切り用具でしぼる等による徹底的水切り
 ・分別収集：洗浄の目安を十分に伝えてプラ製容器包装の分別
 ・集団回収：ミックスペーパーに特別報奨金交付
 ・ごみ半減袋の使用：20%のごみ袋1回1袋で排出
- 減量施策の地区住民への浸透・定着する仕組みの検証
 (例)・高齢者にも丁寧に分別方法を説明
 ・全戸に月1回減量ニュースを配布
- 参加者・グループ間の役割分担と地域ごみ半減推進会議の全市拡大の可能性の検証

■減量効果の把握

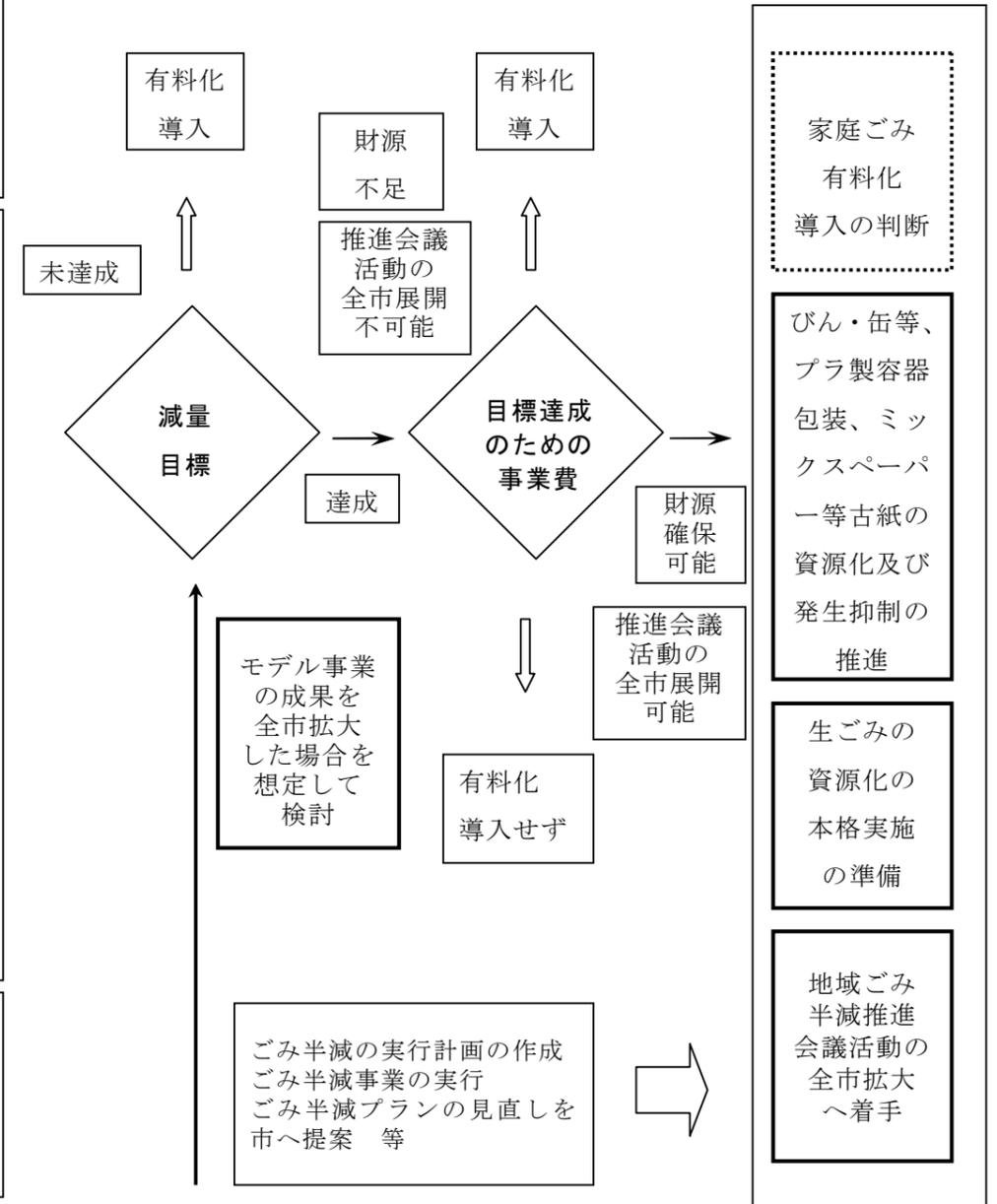
- ・取り組みの効果を計量パッカー車や地区内ごみ排出量サンプリング計量等で定期的に把握

(H25秋～H26春)

■事業効果・費用の検証

- (24年度上半期と25年度上半期を比較して13%減)
- ・全市に適用すべきごみ半減手法と施策浸透・定着の仕組み
- ・地区の特性に応じて適用すべきごみ半減手法と施策浸透・定着の仕組み
 (例)自治会未加入の若い世代の居住が多い駅周辺地域での情報浸透の手法

■ごみ半減を推進する地域ごみ半減推進会議による取組の有効性の検証と全市展開の可能性の検討



家庭ごみ有料化導入の判断

びん・缶等、プラ製容器包装、ミックスペーパー等古紙の資源化及び発生抑制の推進

生ごみの資源化の本格実施の準備

地域ごみ半減推進会議活動の全市拡大へ着手